

首相「辺野古」明言

知事「遺憾、厳しい」

再来県 県庁で会談



米軍普天間飛行場の移設問題で仲井真弘多県知事(右)と会談し、辺野古移設を明言した鳩山由紀夫首相=23日午前11時すぎ、県庁(代表撮影)

米軍普天間飛行場の移設問題で、鳩山由紀夫首相は23日、再来県し、仲井真弘多知事と会談した。首相は「代替地は県内。具体的には名護市辺野古の付近にお願いしなければならぬ」という結論に至った」と述べ、事実上、キャンプ・シユワフ沿岸部を埋め立てる現行案への回帰を表明。仲井真知事は「大変遺憾。(辺野古への移設は)極めて厳しい」との認識を示した。

米政府は地元合意の取り付けを日本政府に求めているとみられるが、稲嶺進名護市長も一貫して反対を表明しており、合意を得る見通しは立っていない。

鳩山首相は昨年衆院選前に「最低でも県外」と発言していたことについて、「普天間のヘリ部隊をほかの部隊と切り離して国外・県外に移設すると海兵隊の機能を大幅に損なってしまう」と撤回。その上で「県民に混乱を生じさせたことに対して、心からおわび申し上げます」と陳謝した。

仲井真知事は4・25県民大会や5月16日の普天間包囲行動を挙げ、「県外・国外という県民の熱い思いとの落差は非常に大きい」と指摘した上で、「きちんと時間をかけて説明と納得のいく解決策をきちんとしていただくしかない」と求めた。

日米両政府は2006年、シユワフ沿岸部に2本の滑走路をV字形に建設することで合意。07年8月から防衛省が環境影響評価(アセスメント)手続きを開始している。鳩山首相が示した辺野古への移設はアセスの範囲内での微修正にとどまるとみられ、現行案と何ら変わらない。

政府は今年22日までの日米協議で、埋め立てやくい打ち栈橋(QIP)方式などの工法は明言せず、詳細な移設計画策定は9月まで先送りした。普天間のヘリコプター部隊や嘉手納基地の一部訓練を県外へ移転する方針だが、詳細は明らかになっていない。代替施設は自衛隊と共同使用したい意向だが、県民の理解を得られるめどはまったく立っていない。

県内押し付けに「怒」

仲井真弘多知事と面談するた
め県庁を訪れた鳩山由紀夫首相

「基地の県内移設に反対する県
民会議」は23日午前9時から県
庁前で緊急集会を開き、県内外
から約400人が参加した。



「怒」と書かれた黄色のプラカ
ードを掲げ、「基地の押しつけ
を許さない」「県民の叫びを聞
け」とシユプレヒコールを上げ
た。

名護市辺野古で反対運動を続
けているヘリ基地反対協議会の
安次富浩共同代表が「こんな人
を首相にしたことが恥ずかし
い、悔しい、悲しい。しかし、
失望はしても絶望はしていない
い」と訴えると、参加者からは
ひととき大きな拍手と歓声があ
がった。

沖縄市から参加した仲宗根藤
子さん(74)は「毎日軍用機の爆
音に踏みにじられ、やっと県外
移設の光が見えたと思ったの
に。(首相は)県民を人として
見ていない。怒りを我慢できな
い」と話した。

集会後、参加者は県庁前出入
り口近くに移動し、道路の両脇
を「怒」のプラカードで埋め尽
くした。

「怒」と書かれたカードを高く掲げ、県内移
設反対をアピールする参加者たち。23日午前
9時22分、県民広場

首相の「普天間」語録

【2009年】
12・15(結論を出すには)数
カ月の単位が必要だ(移設案規
定の期限に初言及)
12・25「来年5月までに新し
い移設先を含めて決定したい。
そのための最大限の努力をす
る(記者会見)」

【2010年】
1・22「もし昨年未だに結
論を出していたらどうなってい
たかを考えたとき、やはり5月
末までという形に今は良か
ったと思う(衆院予算委員会)」
1・25(移設先の候補には)
あらゆるものが入ると理解を願
いたい。5月末までの結論を必
ず履行する(名護市長選の結果
を受け)

1・28「できなかったらとい
うことは毛頭考えていない。最
悪のシナリオは私たちには存在
しない(参院予算案)」
2・4「5月末までに決めな
ければ、政治家として決断でき
ない」ということになる。そこ
に覚悟のほどを読み取ってもら
いたい(参院決算案)」
2・9「必ず5月末までに新
しい移設先を探す強い意志で努
力している(衆院予算案)」
2・16「5月末(の決定)に
何ら影響は与えない(沖縄基地
問題検討委への移設案提示延期
を受けて)」
2・22「5月末までにでき
ないことは考えていない。でき
なかつたらどうすると言って外
交する人間はいない(衆院予算
案)」

2・24「これがベストか検討
しながら5月末までに結論を出
す考え方に変わりはない(県議
会の意見書可決を受けて)」
2・26「5月末までに必ず決
める方針で動いている。いろん
な声が出ているが、動揺が極力
抑えられるよう努力しないとい
けない(仲井真弘多知事が県内
移設反対の可能性に言及したこ
とを受けて)」
3・1「沖縄、米国の理解を
もらい、連立内閣で結論を出す
強い覚悟を臨む(衆院予算委分
科会)」
3・6「一つ一つの政策の実
現に向けては覚悟を持って臨

む。当たり前の話だ(自民党の
大島理事幹事長が5月末決着で
きなければ退陣を求めたことに
答えて)」
3・9「進退をかけるのか野
党の挑戦に乗るつもりはない。
国民の暮らしや命にかかわる話
であればあるほど総理大臣とし
て意思決定に覚悟を持って臨
む(官邸で)」
3・10「できなかったらどう
だという話ではない。必ずやる
との意志を示しているだけだ」
(官邸で)

3・26「最終的に政府案を一
つにまとめるならば、(米側や
地元と)交渉をやるわけにはい
かない。3月中旬に政府案をま
とめる(記者会見)」
3・29(5月末まで)あと2
カ月なので(政府案を)まとめ
る時期になってきている(官邸
で)

3・30「1日、2日、数日ず
れることは何も大きな話ではな
い。大事なことは5月にしつか
りとした案を理解してもらおう
とだ(政府案まとめが4月にす
れどむことを受けて)」
3・31(5月末期限は)設け
なければ米側と話し合いすらで
きなかった。半年で区切りをつ
けて結論を出す判断は正しいと
思う(記者団に)

4・10「これから難しい状況
が起ることに変わりがなく、
5月末までに米国の理解が得ら
れるよう、最終結論を導いてい
きたい(岡田外相・ルーエ駐日
米大使の会談報告を受けて)」
4・12「オハマ米大統領に経
緯を説明したい。5月末までに
結論を出すため、お互いに協力
していくと申し上げたい(移
設安全保障サミット出席に先立ち
官邸で)」
4・16「どうせ鳩山さんだか
ら、できないだろうと、メディア
が書いているが心配しなくて
結構だ。必ず5月末までに結
論を出すと言っているのだから、
結論を出す(後援会関係者との
懇談で)」

4・20「首相として覚悟を持
つて臨んでいる。地元を含めた
国民や米国の理解を得て、5月
末までに決着させる考えに変わ

りはない(衆院本会議)
4・21「少なくとも県外に移
設先を求める気持ちは、5月末の
時期も変えるつもりはない。昨
年12月に辺野古に決めていれば
どんなに楽だったか。日米関係
は一見、良くなったように見え
たかもしれない(党首討論)」
4・23「すべての政策に職を
賭して臨んでいる。その中に普
天間も含まれている(参院本会
議)」

4・30「一度約束したことは
守りながら、決断は無理かもし
れないが、方向性は指し示さな
いといけな(宮嶋昌吉参院議
員との面談)」
5・4「5月までという気
持ちは変わっていません。国際
的な約束と比べてオハマ大統領に
も再三申し上げていますし、普
天間の危険性と騒音の除去を考
えた時に先延しになることは
決して許されたい状況だと理解
しております(初来県時に普天
間第二小学校での住民対話集
会で)」

5・10「沖縄や移設先にかか
わりのある皆さん、米國、連立
政権がこの方向で、行く」と
まとめること(合意と私は呼ん
だ。定義を変えているわけでは
ない(米國や地元の理解が得ら
れていないこと))
5・13「国民に約束した5月
末の期限で、できる限りのこと
はする。すべて果たせるかどう
かは6月以降も語る必要がある
こと(移設案提示延期を受けて)」
5・13「5月末決着の考えを
変えているわけではない。当然
その方向で今やっている(移設
をめぐる一定の方向性を取りま
とめることが「決着」になるこ
の考えを表明)」

5・17「5月末決着に向け最
善の努力をする。『よし分かっ
た。しっかりやれ』と言われる
ように、何としても決着を図り
たい(官邸で記者団に)」
5・18(米政府、地元との協
議の)どちらが先というより、
むしろ同時に行う必要がある」
(2度目の来県について)

5・20「5月末に向けて最終
的な努力を行っている。私の考
え方を国民の皆さんに申し上げ
る(政府の対処方針を記者会見
で示す意向を表明)」